

第29回電波功績賞 「総務大臣表彰」「電波産業会会長表彰」受賞

2018年6月27日に開催された第29回電波功績賞表彰式において、省電力技術eDRX実用化チーム（代表 二方 敏之）が「IoT通信機器の省電力技術eDRXの実用化」について総務大臣表彰を、ネットワーク仮想化基盤開発チーム（代表 杉山 一雄）が「複数ベンダの通信ソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術（NFV）の実用化」について電波産業会会長表彰を受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Business）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。第29回となる今回の表彰では総務大臣表彰が2件、一般社団法人電波産業会会長表彰が6件受賞となりました。

総務大臣表彰の「IoT通信機器の省電力技術eDRXの実用化」では、二方らがIoT通信機器の消費電力を低減するために、コアネットワークと無線ネットワークの連携により間欠送受信の間隔を大幅に延長しスリープ時間を長くするeDRX技術の実用化と国際標準化を推進し、全国のLTEエリアでサービス提

供するとともに、低消費電力UIMを開発し、これらの組合せにより電池寿命を約10倍に延ばすなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

電波産業会会長表彰の「複数ベンダの通信ソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術（NFV）の実用化」では、杉山らが通信キャリアのネットワークに対して仮想化技術を適用し、ハードウェアを統合的かつ柔軟に制御し利用効率を飛躍的に向上させるために、世界で初めて複数ベンダのソフトウェアとハードウェアの組合せを可能とするオープンな環境を実現するとともに、国際標準化にも積極的に貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

